

令和7年11月20日

東松島市議会議長 石森 晃寿 様

(会派名) 自公・市民の会

代表者氏名 土井 光正

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告  
します。

1 会派活動の項目 (該当を○で囲む)

○調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称：行政視察

3 実施期日：令和7年10月29日(水)～10月31日(金)

4 活動成果：各以下のとおり

5 添付書類：各別添のとおりに



## 1. 栃木県足利市役所

視察日程：令和7年10月29日（水）午後2時～午後3時30分

挨拶：足利市議会 金子裕美 副議長

### (1) 中学生への出前授業「出張ぎかい」について

出席者：足利市議会 広報広聴常任委員会 末吉利啓委員長

足利市議会事務局

足利市の概要説明を別添資料に基づき説明を受けた。また、事前質問を行っていた項目について次の回答を得た。

- 1) 出張ぎかい（旧出前授業）はどのような観点から実施されたのか。
  - ・ 中学3年生が公民の授業で地方自治について学習する機会に市議会議員自ら議会の仕組みや議員の役割について説明することにより生徒の地方議会に対する興味・関心を高め、生徒がワークショップを行いまちづくりについて考えることを通して、市議会への理解を深めるため。
- 2) 出張ぎかい（旧出前授業）の具体的な内容について
  - ・ アイスブレイク（議員自己紹介）
  - ・ クラス紹介（クラス代表）
  - ・ 足利市議会紹介動画視聴
  - ・ ワークショップ（KJ法）
  - ・ 発表（市長役、議会側にわかれ二元代表制を体験）
  - ・ 講評
  - ・ 質問タイム（議員への質問時間）

※1時間コースと2時間コースの2パターンがあり、ワークショップ・発表・講評の時間が増える。
- 3) 生徒からの要望を受け実現した内容や検討中の内容について
  - ・ アンケートを実施し実施報告書内容を市長及び教育長に提出している。
- 4) 出張ぎかいの実施による生徒からの反応について
  - ・ アンケート中の意見

「市議会議員は真面目で堅苦しい、怖そうというイメージだったが、授業を受けて印象が変わった。優しくて身近な存在に感じるようになった。」

「市議会議員が市民の代表として、足利市のために頑張っていることを知った。」



という内容のアンケート結果から生徒からの理解を得られていると考えられる。

## (2) 所 感

中学生時代から議会を体験し学ぶということは自分たちが住む市政に対して関心を持つことにつながり、未来の担い手を育てることにもつながるものと考えられる。また、議員という仕事に対して理解することにより市民の声がより市政へと反映され住みよいまちづくりへと続いていくものとする。まだまだ、改善の余地があり出張ぎかいを体験した生徒や先生から新しいアイデアをいただき構築していくというお話もうかがい、今後、出張ぎかいを経験した若い世代の議員が誕生し活躍することを期待するところである。



## 2. 栃木県さくら市 道の駅きつれがわ

視察日程：令和7年10月30日（木）午前10時～11時30分

挨拶：道の駅きつれがわ 支配人 知久裕一様

(1) 道の駅きつれがわのリニューアル後の売上増加について、資料での説明と実際に売り場（道の駅）も案内していただきながら説明を受けた。

## (2) 所 感

道の駅きつれがわは2001年に旧喜連川町の道の駅としてオープンし、2017年にリニューアル。コロナ過においては「時流」に適應した様々な取り組みを行い、現在においても年間約100万人のお客様が訪れ、平日・休日問わず連日多くのお客様で賑わい、堅調な売上増加を続けている。

その理由として挙げられるのは、魅力的な農産物と商品、飲食コンテンツを多数取り揃えているということ。農産物は地元の生産者が出荷する新鮮な野菜・果物が朝から並ぶ。また、お客様がいつ・何時に来店しても商品がないという状態を作らないよう、生産者さんには午後にも農産物を届けていただくという配慮をしている。果物においては地元の物以外にも人気がある果物を置き、売上増加を図っている。商品に関しては地元の産品を用いた道の駅オリジナルのお土産各種、地元のお酒に加え、バラエティーに富んだ酒類を置き、店内で作る弁当・惣菜にも力を入れ、商品の充実を図っている。また、商品の陳列方法においても大分工夫をされている。ただ商品を陳列するのではなく、商品をパッと見て分かりやすい説明が書いた POP を張り、商品に関連した装飾を飾るなど、「商品を売る努力」をしている。飲食においてはテナントとして地元の店舗に複数入ってもらい、テイクアウト商品にも力をいれる。地元の名物「温泉パン」をはじめ、おにぎり・ジェラート・たい焼き・鮎の塩焼き等多彩な商品を揃える充実ぶりである。

また、支配人の地元をはじめとする「お客様・取引先・従業員」への対・人に対するお考えも素晴らしい。

お客様・取引先・従業員を大切にする事で、地元にも愛される。それこそが道の駅において一番大切であるとおっしゃっていた。

道の駅きつれがわの人気は施設や商品の充実だけでなく、道の駅を経営する側と売り場にいる従業員のモチベーションも大いに関わっていることが今回の視察で分かった。

本市においても道の駅きつれがわの経営戦略を是非とも参考にさせていただきたいと思う。



### 3. 栃木県宇都宮市 交通未来都市うつのみやオープンスクエア

視察日程：令和7年10月30日（木）午後15時～午後16時

(1) 宇都宮市における少子高齢化、郊外への人口分散、中心市街地の衰退といった課題に対応するため「交通未来都市」を掲げ取り組みを行っている交通ネットワークの構築状況を、「交通未来都市うつのみやオープンスクエア」という施設で係員の方から別添資料に基づき説明を受けた。

#### (2) 所感

JR宇都宮駅西口のトナリエ宇都宮にある「交通未来都市うつのみやオープンスクエア」では、次世代型路面電車（LRT）を中心とした公共交通政策とまちづくりの一体的な取組について学ぶことができた。宇都宮市では、LRT整備を単なる交通インフラの整備にとどめず、都市の再構築や環境負荷の低減、地域経済の活性化を図るための総合的なまちづくり施策として位置づけており、その成果が着実に現れている点が印象的であった。

特に、交通体系の見直しを契機に市民の意識改革が進み、公共交通の利用促進や中心市街地の回遊性向上につながっている事例は、本市の地域交通を考える上でも大いに参考となるものであった。

今後、東松島市においても、人口減少や高齢化の進展を見据え、持続可能な移動手段の確保と、まちなぎわい創出を両立させるための取組が求められる。今回の視察を通じ、交通政策をまちづくりの重要な柱として捉え、将来を見据えた計画的な施策の推進が必要であると強く感じた。

ただ、宇都宮市の事業は構想から開業まで30年以上の年月を要し、事業費も684億円（うち市の負担358億円）かけた大事業であるので、本市にそのまま応用することは不可能で、本市の実情に沿ったあり方が求められよう。



#### 4. 栃木県矢板市役所

視察日程：令和7年10月31日（金）午前11時～午後12時30分

挨拶：矢板市議会 宮本荘山 議長

##### (3) 部活動の地域展開について

出席者：矢板市議会事務局 事務局長 星哲也

矢板市教育委員会事務局 菊池明子

矢板市教育委員会教育総務課 樋山貴洋

矢板市の概要説明を別添資料に基づき説明を受けた。また、事前質問を行っていた項目について次の回答を得た。

- 1) 移行に伴い、国の方向性をそのまま反映するのではなく、学校現場の教員、生徒、保護者等にアンケートを行っているか。
  - ・国、県からのアンケート（生徒、保護者、指導者、教員向け）を実施している。
  - その他小学校の児童、保護者へのアンケートも併せて実施している。
- 2) 部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンクの登録状況について。
  - ・矢板市では部活動指導員・地域クラブ指導者バンクの設置はしていない。
  - 栃木県の登録バンクを利用。
- 3) 総合型クラブの活用について
  - ・矢板市では総合型スポーツクラブである、たかはら那須スポーツクラブへ業務委託を行っている。
- 4) 部活動地域移行は地域を活性化させる仕組み等と連携されているか。
  - ・市長部局と連携し、総合教育会議で取り上げたり、広報誌を用いて地域人材の活用を進めたりしている。また、学校運営協議会などでの話し合いを進めている。

##### (4) 所感

矢板市の部活動の地域展開は昨今の生徒数（部員数）の減少や教員数（顧問教員数）の減少により、生徒が希望する種目を選択できないことや、顧問教員の異動により、それまで活発に行ってきた部活動が停滞し休廃部にいたるという懸念から令和2年に協議会を設置、令和3年から開始したものである。これは部活動が教師の長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師には多大な負担となっていることから、教師の負担軽減を考慮したのものである。

生徒数が減少を続ける本市においても、地域全体で子どもたちの活動を支える仕組みづくり（地域展開）は、大いに参考になると感じた。今後は、本市でも関係団体と

の協議を重ね、地域の実情に応じた体制づくりを検討していく必要がある。

一方、参加費や送迎にかかわる保護者負担、指導者の確保（特に文化部）などまだまだ課題が多くあることもまた事実として検討していかなければならないであろう。

担当していただいた樋山氏は本市の震災復興のため尽力くださった方で、おの君を持参して説明をしていただいたことが印象的であった。



